【歷史文化学科 国語·日本史基礎学力型】

[-]

問 1	1	2	3	4
	明快	だっしゅ	才覚	占
	5	6	7	8
	がかい	偏在	双方	隔
問 2	4			
問 3	2			
問 4	自壊作用			
問 5	5			
問 6	3			
問 7	それは時代			
問 8	2			

問 1	1	2	3
	さかのぼ	顕著	示唆
問 2	山上憶良		
問 3	親魏倭王		
問 4	近江		
問 5	工		
問 6	工		
問 7	河村瑞賢		
問 8	大岡忠相		
問 9	西陣		

徳川家康により開かれた江戸幕府は、老中や若年寄などの諸機関を整備したほか、各地に大名を配置し、幕藩体制を築いた。江戸は幕府支配の本拠として、旗本・御家人などの多くの家臣が集住し、参勤交代により全国の大名やその家臣を含めた多くの武士らが居住する一大中央都市となった。参勤交代により江戸に参府して将軍に拝謁させたり、貨幣鋳造権を幕府が独占したことで、「中央=江戸」という意識をもたらす一方、禁中並公家諸法度により「勅許より法度を優先」させたほか、京都所司代や京都町奉行を設置し、京都の朝廷や公家を監察するなど、江戸が京都を越える下地を作り上げた。

間 10

各地に配置された大名は領国内に城と城下町を築いた。兵農分離の推進もあって、多くの武士や領国の経済を支える商人や職人などが城下町に集住し、都市生活を営むようになった。軍事上・経済上の必要から、中央都市江戸と各城下町は陸上・水上交通でも結ばれ、東海道などの五街道が整備され、江戸一大坂間に樽廻船・菱垣廻船などの定期廻船も運行し、消費者の需要を満たすため、多くの物資が各地から江戸に運ばれた。一方、江戸の商品なども城下町を経由して各地に運ばれ、地域経済を発展させた。

19世紀初期には江戸を中心に化政文化が開花し、江戸の風俗・行事などを伝える『江戸名所図会』が刊行された。文学では為永春水の『春色梅児誉美』や曲亭(滝沢)馬琴の『南総里見八犬伝』などが人気を博したほか、葛飾北斎が『富嶽三十六景』、歌川広重が『東海道五十三次』を描いたことで、風景画が好評を得た。広重の作品に『名所江戸百景』があるが、「江戸=中央への憧れ」もあり、数多く刊行された。このような中央の文化は各地方にも伝搬し影響を与え、さらに江戸の中央としての役割を高めていくこととなった(744字)